

# Contest

## 【過去の結果発表】

### 2004年作曲コンテスト オリジナル編 結果発表

コンテスト史上最多の作品が応募され、今回はやむを得ず予備審査を実施致しました。予備審査を通過しなかった応募者の皆様、本当に申し訳ございませんでした。そして、応募くださった皆様、沢山のご応募ありがとうございました。

CD3枚にわたる応募作品を審査くださった審査員の皆様、本当にお疲れ様でした。

今回、入選作品の中で、石川さんの作品が、これまたコンテスト史上初の評価点100(満点)を獲得されました。これを記念致しまして、ズーラシアンブラス作曲コンテストでは最高賞「ゴールドタッドポウル賞」を新設致しました。賞金もなく、しかも3回受賞しないとあまり意味のない、何とも中途半端な賞ですが、事務局の『気持ち』と捉えてください。

入選された皆様、おめでとうございます。  
8月1日に『音楽の絵本ウェブショップ』にて販売を開始いたします。

残念ながら惜しくも入選に至らなかった皆さんも、来期の新しいコンテストに再度挑戦してください。

(2004/07/20)

### 【ゴールドタッドポウル賞受賞作品】

**金管五重奏のための「モールスクランブル」(Mor'scramble for brass quintet)**  
作曲：石川 亮太  
試聴は→[こちら](#)

#### 【コメントとプロフィール】

- ◆楽曲について
- ◆コメント

S・O・S！救助を求める人々からのモールス信号を受け、ブラス部隊が華麗に緊急出動(スクランブル)！！モールス信号のリズムをモチーフにするという、ちょっぴり実験的な試みをした曲です。しかし、決して難解な音楽ではなく、吹いて、聴いて楽しい音楽を目指しました。精密かつ「ノリ」のあるアンサンブルが求められますが、アクセントをバシバシ決めて、金管楽器の魅力を強烈にアピールしていただければと思います。

二度目の入選、そしてゴールドタッドポウル賞、とても嬉しいです！吹奏楽やアンサンブルの演奏をずっと続けているせいもあって、私にとって作曲することとは、演奏することと切っても切れない間柄です。創る・演奏する・聴くものそれぞれを、大きな喜びで繋げられるような、そんな音楽を創ってあげたいと思っています。これからも頑張ります！ありがとうございます。  
2004年7月 石川亮太

#### ◆プロフィール 石川 亮太

1983年横浜生まれ。12歳より吹奏楽部にてサクソフォーンを演奏、また作曲・編曲も開始。高校在学中には自作作曲で二度のアンサンブルコンテスト出場。現在、東京音楽大学作曲指揮専攻(芸術音楽コース)4年在学中。主な作品にサクソフォーン協奏曲「スカンジナビア」、リコーダーと弦楽三重奏のための「夏休み冒険記」、など。

**【入賞作品01】 das Raumschiff (ドイツ語で、宇宙船の意味) 作曲：伊藤 恵理子**  
試聴は→[こちら](#)

**【入賞作品02】 金管八重奏のためのシチリアーナとファンタジア 作曲：高橋 宏樹**  
試聴は→[こちら](#)

**【入賞作品03】 「小組曲」第一番～金管五重奏の為に～ 作曲：吉村 選**  
試聴は→[こちら](#)

**【入賞作品04】 人間的な2つの「性格」～金管五重奏の為に～ 作曲：佐々木 亮輔**  
試聴は→[こちら](#)

#### 【01 コメントとプロフィール】

- ◆楽曲について
- ◆コメント

この曲は、広大な宇宙を宇宙船で探検するイメージで書きました。演奏者の方に、ワクワク・ドキドキを感じ、表現して頂ければありがたいです。1曲を通してスタッカート気味に、活き活きと演奏してください。また、アンサンブルの迫力や和音に重点を置いています。アンサンブル演奏の楽しさ、気持ちよさをお伝えできれば幸いです。そして、曲最後のFoot Perc.では、足を踏みならして体いっぱいダイナミクスを表して頂ければと思います。

◆コメント  
私に音楽とその楽しさを教えてくださった、全ての皆さまに、心からありがとうございます。v  
2004年7月 伊藤恵理子

#### ◎伊藤恵理子

5歳よりエレクトーン演奏・ピアノ演奏を学ぶ中で、「演奏者の視点から、いかに音楽を表現するか」という作曲の姿勢を身に付ける。高校から現在まで、オーケストレーションに興味を持ち、習得する過程で、コブランドの楽曲に深く影響を受け、ブラスアンサンブルの作曲を始める。「作る側、演奏する側、聴く側と一緒に楽しむことのできる音楽を」目指す作曲家。

#### 【02 コメントとプロフィール】

- ◆楽曲について
- ◆コメント

「なるべくわかりやすい曲」というのをコンセプトに作ってみました。吹いて楽しく、聞いて楽しく、そうなるだけならなによりです。楽曲は作りが単純な分、表現が難しいかと思えます(譜面にも細かい指示などはありません)が、バンドによってそれぞれの色が出せるんじゃないかと。。。「ぬりえ」みたいなもので、色の塗り方はいろいろあっていいと思います。ぜひそのバンドにしか出せない色を目指してみてください！

◆コメント  
ズーラシアンで賞をいただくのはこれで2回目になりますが「入選通知」が来た時の喜びはまったく変わらないものです。楽曲はさほど難しいものではないので、楽しく気軽に吹いていただければと思います。この曲が、演奏される皆さんに喜びやいい思い出を与えてくれたら、どんなに嬉しいことでしょう。  
2004年7月 高橋宏樹

#### ◎高橋宏樹

1979年東京生まれ。都立北多摩卒業。その後パンスクール・オブ・ミュージックで映像音楽など学ぶ。これまでの受賞：「ズーラシアンブラスアレンジコンテスト」入賞(アジア・日本編)。「全日本吹奏楽コンクール課題曲公募」入選(イギリス民謡による行進曲)。「鳥取民謡アレンジコンテスト」特別賞。「桜島イメージソングコンテスト」最優秀賞。「長野信州中野イメージソングコンテスト」優秀賞など。

#### 【03 コメントとプロフィール】

- ◆楽曲について
- ◆コメント

各楽章についての演奏に対する留意点を書きたいと思えます。

#### 1) Overture

急緩急の3部構成です。

早い部分は軽く、そしてフレーズの流れを感じつつ、ゆっくりな部分は<>に注意してフレーズのヤマ(各パートに違う山があります)を感じてみてください。

#### 2) Andante

ファンタジックに、そしてしっとりとしたイメージをもって作曲しました。各パートの音量のバランスに気をつけて、そしてメロディは思いっきり歌い込みましょう。

#### 3) March

元気な行進曲です。HrのグリッサンドやTbの引掛けの32分音符はしっかり吹いて、全体的にビビッドに華やかに演奏していただければ、と思えます。

- ◆コメント

この曲は3曲からなるまさに「小組曲」です。全3楽章からなりますが、各曲は非常にシンプルかつ親しみのある曲になっていますので、アンサンブルの愉しみを感じながら各曲にちりばめられているさまざま要素を感じつつ演奏していただければ、と考えています。また、中高生などのアンサンブルコンテストなどにも吹奏される楽曲になっていると思えますので、是非挑戦してみてください。

2004年7月 吉村選

#### ◎吉村 選

1982年東京都生まれ。幼少よりピアノ、トロンボーンなどを習う。作編曲は独学。現在は吹奏楽、アンサンブルなどの作編曲を行ない、各作曲賞への投稿をしている。

#### 【04 コメントとプロフィール】

- ◆楽曲について
- ◆コメント

少し考えこんでしまうような題名ですが、曲の内容はまさにその名の通りです。それぞれ個人的で人間くさい2つのテーマが登場して参りまして、お互い呼びかけあい、共鳴しあい、時に融合したりして発展していく様子を表現しています。1人目(テーマ1)は変拍子をバリッとかっこよく、2人目(テーマ2)は、執拗に繰り返される旋律を半ばおどろおどろしく演奏するようにして、その2つの対照性をはっきり出すとおもしろいと思えます。

◆コメント  
この度の入選という結果を、とても嬉しく思っております。同時に、これまでに私の書いた音符を演奏して頂いた方々には、本当にたくさんの勉強をさせて頂いたと思ひ、心から感謝しています。この曲をできるだけ多くの方々に楽しんでもらえることを願っております。

2004年7月 佐々木亮輔

#### ◎佐々木亮輔

1982年、神戸市生まれ。大阪音楽大学在学中。作曲を鈴木英明、中村茂隆、南夏世の各氏に師事。様々な編成のための編曲を数多く手掛けながら、実用的な作・編曲法を学んでいる。主な作品に、吹奏楽のための「Overture for Our New World」、吹奏楽のための「好景気」、2つの金管五重奏団のための「British Fanfare」他。

#### 【審査員】

中川 喜弘 Trumpet 奏者、アレンジャー、ZB 音楽監督 (Jazz 担当)  
三澤 慶 Trumpet 奏者、作曲家、ZB 音楽監督 (Classical 担当)  
宣嶋 佳代 Pianist、スーパーキッズレコード プロデューサー  
大塚 治之 ZOORASIAN BRASS プロデューサー

#### 【総評】

今回は本当に沢山の作品に応募いただきました。予備審査を行ったことには、応募者の皆様に申し訳ないと思う反面、ようやくブラスアンサンブルに皆様の目が向いてきた現れと捉えれば、嬉しさと期待に胸が躍ります。応募された作品は、入選作品を聴いていただければ分かるように、大変レベルが高いものばかりでした。

入選されなかった作品、予備審査を通過しなかった作品の中にも、優れた作品が多数ありました。

入選の分かれ目は、完成度と魅力でした。以前であれば、完成度が高ければ入選できていたと思うのですが、今回のように優れた作品が多数応募されると、完成度だけでは入選は難しくなります。

さて、そこで問題になるのが『魅力』です。アカデミックな『芸術性』より『魅力』を評価するところが、ズーラシアンブラス作曲コンテストの特徴です。

ブラスアンサンブルについての捉え方、考え方は、様々にあると思えます。どれがどう正しいかと言うことは、不毛な議論ですのだと思つても構いません。重要なことは、いずれの考え方でも、その考えに基づいて『実践し実現する』ことだと思います。

ズーラシアンブラスでは『聴衆』『奏者』『作曲家』にとって『魅力的であること』『感動的なこと』を具体的に実践するため、そうしたシーンを沢山作りたと思っています。音楽的な理屈はこの『魅力的であること』『感動的なこと』を表現するための手段にすぎないと考えています。

今回新設されたゴールドタッドポウル賞を受賞された、石川さんの作品は、そうした意味において大変素晴らしい作品だったと思えます。この作品を音楽大学の教授がどのように評価されるかは、我々の知るところではありませんが、少なくともズーラシアンブラスとしては、最大級の賛辞を贈りたいと思えます。

同じく入選された、伊藤さんの作品もほぼ満点です。金管楽器の基礎的な奏法の部分でハードルが高いように感じられる点以外は、石川さんと同じように本当に『魅力的』だと思えます。あとは、演奏者の皆さんが、伊藤さんの作品を素晴らしく表現し、我々の懸念を払拭してくださいを願います。

また、高橋さんの入選作品における、その作曲姿勢には大変頭が下がりました。作曲家としては、プロフェッショナル向きの作品を作ることの方が、表現の幅が広がる分、エネルギーをぶつけやすいと思うのですが、あえて中高生向きの作品にトライし、限られた表現力の中で、素晴らしい作品を提供して下さったと思えます。

余談ですが、今回の入選作品の作曲家の平均年齢は、なんと23.4才です。石川さん、佐々木さんの21才から最高でも28才です。若い人はすごいですね。おじさんおばさん作曲家も頑張りますよ。

ご応募くださった皆さん、本当にありがとうございます。

良い作品が沢山誕生しました。これはNEWSです。

(2004/07/20 ズーラシアンブラスプロデューサー 大塚治之)